

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2011年3月2日

所属：教育文化学部・国際言語文化課程・日本アジア文化選修4年

氏名：大久真澄

派遣先大学名：国立ハンバット大学校（大韓民国・大田）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2010年3月～2011年2月

渡航年月日：2010年2月25日

帰国年月日：2011年2月5日

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

ハンバット大学では、国際交流院で韓国語の文法・聞き取り・会話・読み取り・書き取り等、様々な面から韓国語を学びました。講義は中国人留学生やモンゴル人留学生と共に受けており、講義中に自国の文化をパワーポイントで発表することもあったため、韓国だけではなく様々な国の文化・風習も学ぶことができました。

また私は「韓国・大田の屋台」を卒業論文のテーマにしようと思い、留学中に大田の街に出て屋台を経営している人々に聞き取り調査を行いました。今後はこの調査をもとに卒業論文を作成しようと思います。

○生活面について

留学中の一年間は日本語科に所属し、日本語科の一員として様々な行事への参加をしました。MT（新入生歓迎合宿）では、日本語科のみならずと一泊二日の旅行に出かけてゲームをしたり組に分かれて出し物を披露したりお酒を飲みながら徹夜で語り合ったりと、長い間一緒に楽しい時間を過ごしました。体育大会は、約一週間の間、サッカー・ドッジボール・バスケットボール・長縄跳びなどで、学科同士で競い合います。日本ではサークル単位での活動が活発ではありますが、学校全体で行われる行事が少なく、学科の結束を深める機会があまりないような気がします。この他にも学園祭、学術祭があり学科内での結束力が強く、1年生から4年生、先生もみんな仲がいいと感じました。

また、音楽のサークルに入りバンド活動をしたことが韓国語の力を伸ばす役に立ったと思います。日本語科の友達には日本語が上手なため、わたしが韓国語の単語や表現が分からないときなど、日本語で言えば通じるため、甘えて日本語で話すこともありましたが、サークルの仲間は日本語が全く分からないため、どうかして韓国語で説明しなければならず、必死に韓国語で伝える努力ができました。さらに音楽用語など、普段は使わないような単語をたくさん覚えることができました。また、サークルでもMTに参加したのですが、

第1期の先輩までそのMTに参加するなど、上下のつながりが強いと感じました。

○その他留学全般にわたる感想

韓国留学の一年間は様々な発見がある、刺激のある毎日でした。考え方や文化の違いを肌で感じ、日本人である自分について考え直すいい機会にもなりました。留学前は韓国語を習得することが目的でしたが、韓国語を一つの道具として使い、出会った人々とのふれあいを通して多くのものを吸収できた留学生活になったと思います。

